

平成 26 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析

第 2 学年

東久留米市立南中学校

(英 語 科)

◇結果分析Ⅰ

<正答数分布から>

- ◆正答数が 1 2 問～1 7 問、1 8 問～2 3 問の生徒がほぼ同じ割合で一番多く、最も少ない割合は 0 問～5 問である。
- ◆正答数ごとの生徒分布は、東京都と同様の傾向が見られる。
- ◆東京都と比較して、正答数が 1 1 問以下の割合は低く、1 2 問以上の割合はやや高くなっている。

<到達目標値達成の生徒の割合から>

- ◆到達目標値に達成している生徒の割合は 2 6 . 9 % であり、東京都を 7 . 0 ポイント上回っている。

◇結果分析Ⅱ

<観点別結果から>

第 2 学年の学力調査の結果を都の平均と比べると、「教科の内容」については 1 . 0 % 上回っていた。観点別に見てみると、「思考・判断・表現」は 6 . 6 % 下回っていたが、「関心・意欲・態度」は 8 . 4 %、「技能」は 6 . 1 %、「知識・理解」は 7 . 0 % 上回っていた。

またクラスごとに見てみると、「思考・判断・表現」について 4 クラス中 2 クラスが都の平均を下回ったが、それ以外の項目については全て都の平均を上回っていた。

<領域別結果から>

第 2 学年の領域別結果を都の平均と比べると、「読み解く力に関する内容」について「解決する力」は 1 . 4 % 下回っていたが、「取り出す力」は 4 . 1 %、「読み取る力」は 3 . 9 % 上回っていた。

◇課題

<結果分析Ⅰから>

- 正答数の少ない生徒に、英単語の読み・書きの練習や教科書の読み練習などをきめ細やかに指導したりそれらの課題を別に与えるなど、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る必要がある。
- 正答数が18問～23問の生徒には、授業中に扱う練習問題に繰り返し取り組ませることで基礎的・基本的な内容の一層の定着を図ると共に、練習問題の中により高度な問題も入れ、その問題に取り組ませることで、より理解を深めさせる。
- 到達目標を達成している生徒には、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図るなどして英語を用いているいろいろなことを表現させるなど、英語を用いた思考力や表現力の一層の伸長を図る必要がある。

<結果分析Ⅱから>

- 新しい文法事項を学習する時は、必ずその文法事項を用いて表現する活動を行う。
- 英文を書く・話す活動を多く取り入れる。
- 自分の考えなどを表現する活動を多く取り入れる。
- ALTを活用するなど、英語で会話する機会を増やす。